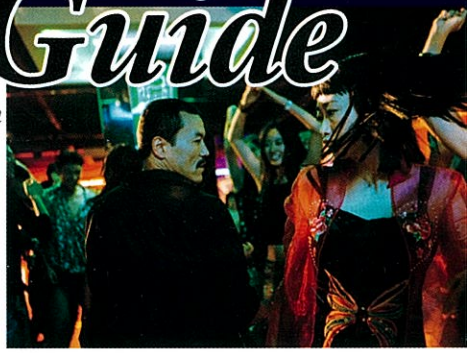
Book Guide

presended by TOHO shoten

映画をひもとくキーワード 江湖（ごうこ）をめぐる



映画『帰れない二人』を語る上で最も重要なキーワードであり、日本語で『俗世』、『浮世』などと訳される中国ならでは世界観──江湖。混沌とした中国の江湖をたくましく生きる草の根の人々。今回はそんな男女の生き様を鮮やかに描き出した本をご紹介します。この４冊を読めば、『帰れない二人』がもっと面白くなること間違いなし！

大陸の風土

中国 銀河鉄道の旅

沢野ひとし／本の雑誌社／本体 1800 円＋税

還暦を過ぎてから中国語を学び始めた著者の中国大陸放浪記。各地の歴史と文化、旅の途中で出会った人々との交流を哀愁溢れる筆致で綴り、変わり続ける中国に生きる庶民の、良い意味での変わらなさを浮かび上がらせている。飛行機の中で偶然知り合った女性とのエピソードが特に印象深い。黒竜江省の田舎に生まれ、様々な困難に直面しながらも力強く生き続ける彼女の姿が、主人公の面影とどことなく重なる。

白酒に込めた仁義

魯迅と紹興酒

お酒で読み解く現代中国文化史

藤井省三／東方書店／本体 2000 円＋税

文学研究者という立場から中国の変化を見つめてきた著者が、酒をキーワードに、改革開放以降40 年の中国語文化圏の変遷を語る。映画の中で描かれる登場人物たちの豪快な飲みっぷり。その背景にある中国飲酒文化への理解が深まる１冊。最近は中国でも消費者の好みがビールやワインへと移り、白酒（40 度～ 60 度の蒸留酒）の消費量が減少しているらしい。著者は中国の白酒文化を守りたいという気持ちに突き動かされ、ある提言を行うが、中国の愛飲家たちはなかなか首を縦に振らない。その提案の内容とは？

底辺からの声

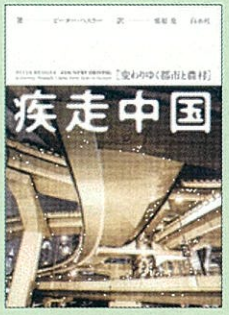
中国は ここにある

貧しき人々のむれ

梁鴻著／鈴木将久・河村昌子・杉村安幾子訳／みすず書房／本体 3600 円＋税

丹念なフィールドワークと聞き取り調査によって、現代中国農村部が抱える様々な問題を克明に記したノンフィクション。研究者として確固たる地位を築き、北京で何不自由ない暮らしを送りながらも、敢えて故郷の農村に戻り、今もそこに生きる家族、友人、隣人の声を記録し続ける本書の著者。映画監督として世界的な成功をおさめた今でも、山西省の江湖（浮世）に生きる名もなき人々を深い共感とともに描き続けるジャ・ジャンクー。二人の表現者としての姿勢には相通ずるものがある。

移ろいゆく風景



疾走中国

変わりゆく都市と農村

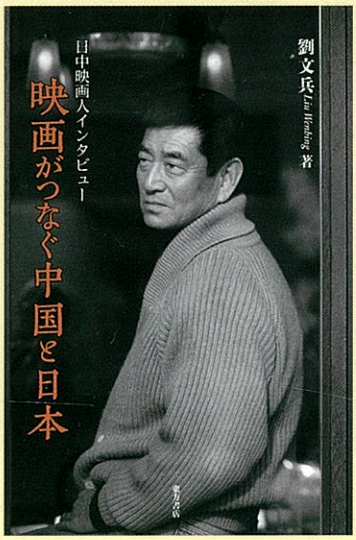
ピーター・ヘスラー著／栗原泉訳／白水社／本体 2600 円＋税

中国滞在十数年のアメリカ人ジャーナリストが、レンタカーを自ら運転して中国各地を巡り、急激な変化の中を生き抜く人々の日常を活写した傑作ルポ。著者は北京郊外の農村や南部の工業団地に長期滞在しながら、そこに住む人々の生活・思考を内在的に理解しようと試みる。中国の負の側面を照らし出した作品ではあるが、市井の人々に対する著者の眼差しは暖かい。浙江省南部の地域において、数十万人の住民がダム建設により移住を余儀なくされた出来事についても、本書は触れている。水の底に沈みゆく土地の描写が、映画の中で観る三峡の情景と重なり合う。

映画がつなぐ中国と日本

日中映画人インタビュー

劉文兵著／東方書店刊



本体 2000 円＋税

高倉健の圧倒的存在感！

国交正常化以前からの映画人の交流、文革時代の映画製作、高倉健のインパクト、山田洋次・大林宣彦・岩井俊二など日本の監督から受けた刺激、これからの交流のかたち……往年の映画女優、声優から張芸謀、ジョン・ウー、ジャ・ジャンクー、新世代の監督まで、日中の映画人が語る貴重な証言。

主な登場人物
佐藤純子（日本中国文化交流協会常任理事）／謝芳、張金玲（女優）／丁建華（声優）／徳間康快（大映社長）／謝晋、王好為、陳凱歌、ジョン・ウー、張芸謀、賈樟柯、王超、路陽、忻鈺坤（監督）

❖ジャ・ジャンクー（賈樟柯）

私は中国社会の「今」を一種の「臨場感」をもって描こうとしてきました。すなわち、懐かしく回顧したり抒情的に美化するのではなく、映画の世界のなかにみずから深く入り込むために、ドキュメンタリー・タッチで撮ろうとしたということです。これはまた、二七歳で監督としてデビューした私自身のキャリアとも関係しているでしょう。元気盛りで自由奔放な年頃で、しかも自分が置かれている現実そのものを映画の題材としていたのですから。〈303ページ〉

＊　＊　＊

八〇年代の中国映画によく出てくるパターンとして、恋愛が進展しない主人公が何の打開策も見出せないままにペシミスティックに苦悩するというのがありますが、それは現在の中国社会にまったく当てはまらなくなっていると思います。というのも、現在の中国人は、恋愛感情のもつれぐらいのことは余裕を持って自分で処理できるからです。〈307ページ〉

❖ジョン・ウー（呉宇森）

健さんの主演作の中でも『ならず者』（石井輝男監督、一九六四年）は大好きな作品でした。（略）港で待っている女が一人立ち尽くしているラストシーンはとても印象に残り、この場面に触発されて、のちに『狼／男たちの挽歌・最終章』（一九八九年）をつくったのです。〈262ページ〉

Books on China
中国・本の情報館 ～東方書店～

『帰れない二人』公開記念 WEB ページ開設中

https://www.toho-shoten.co.jp/toho/kaerenai.html

『帰れない二人』公開を記念し、東方書店 WEB 上にて関連書籍をご案内しています。
チラシ掲載書籍をはじめ、ジャ・ジャンクー監督作品関連商品や、映画の背景をより深く理解するのに役立つ本など、中国関連書籍専門書店の強みを活かしたラインナップは一見の価値あり！　中国からの輸入書も取り扱っています。
WEB で在庫確認もできます。ぜひご覧ください。

中国ドキュメンタリー映画論
佐藤賢著／平凡社
本体 5,000 円＋税

映画と歩む、新世紀の中国
多田麻美著／晶文社
本体 2,100 円＋税

中国独立電影訪談録
歐陽江河編／四川文芸出版社
本体 3,480 円＋税
＊中国語書籍です